秦野市下水道条例の一部を改正することについて

秦野市下水道条例の一部を別紙のとおり改正するものとする。

令和7年2月21日提出

秦野市長 高 橋 昌 和

提案理由

下水道法施行令の一部改正に伴い、放流水に含まれる大腸菌群数に係る基準を大腸菌数に係る基準に改めるため、改正するとともに、字句の整理を行うものであります。

秦野市下水道条例の一部を改正する条例

秦野市下水道条例(昭和55年秦野市条例第32号)の一部を次のように改正する。

第12条第1項第1号中「。以下「政令」という。」を削り、同項第8号中 「大腸菌群数」を「大腸菌数」に改める。

附則

この条例は、公布の日から施行する。ただし、第12条第1項第8号の改正 規定は、令和7年4月1日から施行する。 新

(処理場放流水質維持のための除害施設の設置等)

- 第12条 次に定める基準に適合しない汚水(法第12条の2第 第12条 次に定める基準に適合しない汚水(法第12条の2第 1項又は第5項の規定により公共下水道に排除してはならない こととされるものを除く。)を継続して排除して公共下水道を 使用する者は、法第12条の11第1項の規定により、除害施 設を設け、又は必要な処置をしなければならない。
- (1) 下水道法施行令(昭和34年政令第147号)第9条の4 第1項各号に掲げる物質 それぞれの各号に定める数値。た だし、同条第4項に規定する場合においては、同項に規定す る基準に係る数値とする。
- (2)-(7) (略)
- (8) 前各号に掲げる物質又は項目以外の物質又は項目で、神奈 川県生活環境の保全等に関する条例(平成9年神奈川県条例 第35号)に基づきその公共下水道からの放流水に関する排 水基準が定められたもの(第4号に掲げる項目に類似する項 目及び大腸菌数を除く。) その排水基準に係る数値

2 (略) \square

(処理場放流水質維持のための除害施設の設置等)

- 1項又は第5項の規定により公共下水道に排除してはならない こととされるものを除く。)を継続して排除して公共下水道を 使用する者は、法第12条の11第1項の規定により、除害施 設を設け、又は必要な処置をしなければならない。
- (1) 下水道法施行令(昭和34年政令第147号。以下「政令」 という。) 第9条の4第1項各号に掲げる物質 それぞれの 各号に定める数値。ただし、同条第4項に規定する場合にお いては、同項に規定する基準に係る数値とする。
- (2)-(7) (略)
- (8) 前各号に掲げる物質又は項目以外の物質又は項目で、神奈 川県生活環境の保全等に関する条例(平成9年神奈川県条例 第35号)に基づきその公共下水道からの放流水に関する排 水基準が定められたもの(第4号に掲げる項目に類似する項 目及び大腸菌群数を除く。) その排水基準に係る数値
- (略) 2

附則

この条例は、公布の日から施行する。ただし、第12条第1項 第8号の改正規定は、令和7年4月1日から施行する。

秦野市下水道条例の一部改正について

1 改正の概要

下水道法施行令(以下「政令」という。)第6条第1項第2号の放流水の水質の技術上の基準では、公共下水道又は流域下水道からの放流水に含まれる大腸菌群数に係る基準を定めています。

大腸菌群数とは、大腸菌数を含む大腸菌と性質が似ている細菌の数であり、ふん便汚染の指標として使われていました。大腸菌群数及び大腸菌数の関係図を次頁に示します。

今般、放流水の水質基準について大腸菌群数より正確な指標である大腸菌数を測定することが可能となったことから、政令第6条第1項第2号で定める「大腸菌群数、1立方センチメートル*、3,000個以下」に係る基準を「大腸菌数、1ミリリットルにつき、800コロニー形成単位以下」の基準に改正が行われたものです。

秦野市下水道条例では放流水の基準に関する条文の規定はありませんが、 秦野市下水道条例施行規程に大腸菌群数に係る基準の規定があるため、本 市も政令にならい、放流水の基準の指標である大腸菌群数を大腸菌数に改 め、その基準値を1ミリリットルにつき、800コロニー形成単位とする ものです。

これに伴い、秦野市下水道条例第12条第1項第8号(処理場放流水質維持のための除害施設の設置等)の条文にある「大腸菌群数」を「大腸菌数」に改正し、併せて字句の整理を行うものです。

※1立法センチメートル=1ミリリットル

2 施行年月日

令和7年4月1日

大腸菌群と大腸菌の関係図

